

公表	児童発達支援事業所における自己評価総括表
----	----------------------

○事業所名	どんぐり			
○保護者評価実施期間	2025年 2月 1日 ～ 2025年 3月 1日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22	(回答者数)	18
○従業者評価実施期間	2025年 3月 20日 ～ 2025年 3月 31日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 31日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者同士のつながりを大切にし、定期的に行事を行っている。	保護者同士が繋がりを持ったり、情報交換しながら子育ての悩みなどを共有する場を設けている。職員も参加し、保護者同士の繋がりをもっているような声掛けを心がけている。	保護者主催の行事などを通して保護者と子どもが自信をもって次のステップに進めるような取り組みを行っていきたい。
2	保護者と離れて集団生活が経験できる。	集団を意識した保育を行っている。まずは、親子で過ごしてきた世界から一歩抜け出して、友だちの存在に気づくことを大切にしている。また、少しずつ友だちとの関わりを意識できるように、保育者が子どもたち同士の気持ちや言葉の代弁をしている。日々、友だちと一緒に過ごし、少しずつ自分を出していきながら人と折り合いをつけることや、人との距離感を学んでいき、集団生活の中で大好きな友だちと一緒にできた！という達成感をたくさん経験し、自信を持って次のステップに向かっていけるような保育を行っている。	子どもの成長を敵がせるような声かけを積極的に行ったり、より多くの行事を行い、取り組みなどを含め保護者に知ってもらい成長を伝える機会を増やす。
3	併設している認定こども園と交流を行うことで、より刺激を受けて成長に期待を持つことができる。	子どもたちが色々な子どもと関わりをもてるように、一時保育や認定こども園の子どもたちと一緒に遊ぶ機会を設けている。どんぐりでできた保育者や友だちとの繋がり の基盤を元に、さらにいつもと違う友だちから刺激を受けて、少しずつ自分の世界を広げていってほしいと想い保育を行っている。	積極的に連携をとり、関わる機会を増やす。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	マニュアルや事業所の詳細について、保護者への周知を行う機会が少ない。	アンケートを通して、聞いたけど忘れたなどの意見があった。 職員間では周知できているが、保護者への周知ができきれていない。	保護者懇談会などを通して、保護者によりわかりやすく説明したり、掲示をもう少しわかりやすいところにするなどの工夫を行う。
2	きょうだい児への支援	利用児の行事に参加されることはあるが、きょうだい児支援という視点で声掛けなどでできていない現状がある。	行事等を通してきょうだい児への関わりを増やしたり、保護者へもきょうだい児の視点での関わりを一緒に考える機会を設ける。
3	通信やホームページ、SNSなどを使った情報の発信	通信は月 1 回発行しているが、インスタグラムの更新がなかなかできていない現状がある。更新する日を決めたり、担当を決め意識する必要があると感じる。	通信の内容をインスタグラムであげたり、気軽に事業所のことをより知ってもらう機会を多く作る。